自衛隊の現場

海上自衛隊幹部候補生学校卒業所感

江田島から錨（いかり）を上げる卒業生

3月15日、海上自衛隊幹部候補生学校（学校長・西山高広海将補）で卒業式が行われました。3等海尉となった卒業生たちは、ご家族、来賓、職員、在校生に見送られる中、凛々しい姿で行進し旅立ちました。

今回、海上自衛隊幹部候補生学校を卒業した2人から所感をいただきましたのでご紹介いたします。

卒業証書授与

第75期一般幹部候補生課程
一般幹部候補生　海曹長
深澤　礼香
（千葉県出身）

本課程において、1年間追求してきた「幹部海上自衛官とは何か」「幹部海上自衛官として何を為すべきか」という問いについて、卒業を迎える今、一定の答えを見つけ出すことができました。

すなわち、幹部海上自衛官とは、答えのない問題を取り扱い、絶え間なく思考し続け、本質を見出したうえで問題を解決することだと考えます。

この答えに至るまで、日々の学生館生活、教育・訓練、競技、行事、体力練成等の全てに力を注ぎ、さまざまな知識や経験を得てきました。

その中でも、特に自分を大きく成長させたのは、野外戦闘訓練と自衛隊記念日行事観閲式への取り組みです。

陸上自衛隊原村演習場で実施した野外戦闘訓練は、本課程の中で最も精神的、体力的に限界まで追い込まれる厳しい訓練でした。不慣れな陸戦靴や常に負荷を掛け続ける重装備は、幹部自衛官になるという生半可な覚悟を打ち砕き、自己を高め、より精強であろうとする志を確立するのと同時に、自分だけでなく周囲の仲間にも配慮しつつ目標を達成する組織の重要性を学びました。

自衛隊記念日行事観閲式では、指導学生として約170人の列員指導に携わりました。大人数の部隊を所要の練度へ到達させるために活用したPDCAサイクルの有用性や、企図の徹底を図ることの重要性に気付くことができた一方で、自らの指揮統率に大きな課題が見つかり、自信を喪失した場面もありました。この行事は、自己形成の大きな転換点となる機会でした。また、苦境に立たされた自分を支えてくれたのは、信頼する同期であることを身をもって感じました。

幹部候補生学校は、私の幹部自衛官人生における原点となる場所です。

本課程で得た知見は、初級幹部自衛官としての知識や技能、シーマンシップ、統率の実践にとどまらず、あらゆる問題に対応するための論理的思考能力の基盤を養い、また、自らが逆境に晒され、助けられなければ気が付かなかった同期との信頼関係を築くことができました。

私は、本課程で得た全ての資質を今後の勤務の礎とし、1年間追求してきた問いの答えを実践していく所存です。

第75期一般幹部候補生課程
一般幹部候補生　海曹長
神田　朋
（東京都出身）

われわれは1年間、さまざまな教育訓練に臨み、幹部自衛官となるべく精進してきました。私自身も、部内課程の指導学生や実習員長、観閲行進の指導学生長、そして第1学生隊学生長など、多くの役職・役割を通してリーダーシップの涵養に努め、また教務や訓練を通じて自衛官としてのアイデンティティーとシーマンシップの体得に努めました。

前期の最後に実施した遠泳訓練では、8マイル（約15㎞）という今まで経験したことのない距離を分隊として泳ぎ切ることができました。これは事前の綿密な準備と訓練、そして同期間の助け合いがなければ不可能でした。この成功体験により分隊の団結が強化され、事前の訓練を適切に行えば、大きな困難も乗り越えられるということを学びました。

弥山（みせん）競技は、厳島（宮島）最高峰の弥山頂上まで、登山の速さを競う競技です。この取り組みを通じて、時間がない中でも工夫し、目標に向かって努力する重要性を学びました。課業時間外は部内資格取得試験の準備に充てられ分隊訓練の時間確保が難しかったですが、休み時間や週末を活用して優勝することができました。

この経験から、忙しい中でも効率的に訓練することの大切さを実感しました。

日常生活では、後期学生長として、室長、室次長たちと協力して第1学生隊のために活動できたことが、私自身の人生にとって非常に大きな意義を持つ経験となりました。

私は、「能力と学業の2つの意味で『誰もおいていかない』」という方針を掲げ、これを達成するためにさまざまな取り組みを行いました。分隊当直による訓育講話や、室次長および学生次長を交えた会報、そして試験対策委員会などがこれにあたります。

学生長として第1学生隊を代表して勤務する中で、自分の全てを出し切ってその責務を全うし、第1学生隊としても個人としても大きく飛躍することができたと感じています。

私は入校時の所感文において、幹候校での日常生活をカルチャーショックと表現しました。当時は常に時間に追われていましたが、今振り返れば、この生活を通じて限られた時間の中でタスクに優先順位をつけ、着実に遂行しつつ、自己の健康管理を行うという先見性と自己管理能力を身に付けることができたと考えています。

この1年を経て得た幹部海上自衛官として、指揮官としての責務を完遂していく自信と覚悟を持って、より精強に、より誠実に、今後の勤務にまい進していきたいと思います。

倶知安（北海道）

冬季戦技競技会を開催

悪天候を克服し、女性隊員が奮闘

陸上自衛隊北部方面対舟艇対戦車隊（隊長・山口康2等陸佐）は2月6日、倶知安駐屯地で「冬季戦技競技会」を実施しました。

本競技会は、隊員の冬季戦技能力の向上、団結力の強化、士気高揚を目的とし、スキー滑走、5人1組の断郊走、アキオ（そり）曳航の3競技で競われました。各チームは個々の技量を考慮して編成され、限られた時間を活用して訓練に励みました。

競技会当日は吹雪と強風の悪天候となりましたが、隊員たちは厳しい環境に動じることなく、全力で競技に挑みました。

特に断郊走では、唯一の女性隊員である通信班・工藤3等陸曹（隊本部Cチーム）が負傷した隊員を曳航しながらゴールを目指し、その力強い滑走に会場から大きな声援が送られました。競技後、工藤3曹は「練成の成果を出せました。チームの力になれてよかったです！」と笑顔で語りました。

個人競技では、管理班・杉本2等陸曹（41歳）が1位、司令職務室・赤坂准陸尉（54歳）が僅差で2位を獲得し、スキー技術の重要性を示しました。

一方、経験の浅い第1小隊・太田陸士長が3位に入賞し、若い力の成長を感じさせました。団体競技では「隊本部Bチーム」が昨年に続き総合優勝を果たし、2連覇を達成しました。

女性隊員の奮闘が光った本競技会は、隊員の結束をさらに深め、大盛況のうちに幕を閉じました。

競技後に満面の笑みを浮かべる工藤3曹

富士（静岡県）

富士教導団と空自が協同警備訓練を実施

市街地訓練場で実践的な警備要領を演練

陸上自衛隊富士教導団（団長・豊田龍二陸将補）は2月5日から7日の間、東富士演習場（市街地訓練場）において、航空自衛隊（浜松基地）と協同警備訓練を実施しました。

本訓練は、普通科教導連隊長（山口1等陸佐）を担任官とし、協同警備能力の向上を目的に、富士教導団隷下の普通科教導連隊、機甲教導連隊、特科教導隊、教育支援施設隊の隊員と、航空自衛隊（浜松基地）の隊員が共同で実施しました。

富士教導団は、年度当初から協同警備の訓練を重ね、段階的に練度を向上させてきました。今回の総合訓練では、東富士演習場内の市街地訓練場を活用し、実践的な環境下で警備要領を演練しました。警戒、巡察、対処行動において、互いの特性を踏まえた協同要領の練度を高めることができました。

富士教導団は、今後も協同訓練を継続し、さらなる練度の向上を目指します。

警備要領の調整をする空自隊員と陸自隊員

三宿（東京都）

カザフスタン軍衛生要員への支援事業

ハイブリッド型シミュレータを活用し教育

自衛隊中央病院（病院長・鈴木智史防衛技官）は1月20日から24日の5日間、カザフスタン軍の衛生要員6人に対し、衛生分野に関する能力構築支援事業を実施しました。

本事業は3年計画の1年目であり、今回の招へいを通じて、中央病院が研究・開発したハイブリッド型シミュレータ（腹部モデル等）に関する基礎知識や技術を教授しました。

戦傷治療に必要な教育・訓練を提供し、所期の成果を達成するとともに、中央病院とカザフスタン軍の交流を促進し、防衛協力・交流事業の目的を果たしました。

参加した6人のうち4人は外科医であり、ハイブリッド型シミュレータのセッティングを、基準の40分を大幅に短縮する17分で完了するなど、想定を超える成果を上げました。教育を担当した中井3等陸佐（臨床医学教育・研究部　研究班長）も、その正確な手技に感嘆していました。

自衛隊中央病院は、今後も本事業を通じて戦闘外傷治療能力の向上を図り、両国のさらなる交流の深化に努めていくとしています。

ハイブリッド型シミュレータ実習風景

丘珠（北海道）

「しのろばらとスノーフェスティバル」を支援

雪の滑り台や餅つきで地域とふれあい

陸上自衛隊丘珠駐屯地（司令・三笠展隆1等陸佐）は2月9日、「しのろばらとスノーフェスティバル」を支援しました。

札幌市北区篠路茨戸連合町内会が主催するこのイベントは、今年で48回目を迎えました。

丘珠駐屯地からは、北部方面航空隊本部付隊（隊長・笹島秀仁3等陸佐）29人と、駐屯地のキャラクター「たまちゃん」が参加し、篠路コミュニティセンターで雪の滑り台作りや滑る子供たちの補助、餅つきとあいどり、雪像制作などを行いました。

隊員たちは、重機で作られた雪山に2レーンの溝を掘り、階段を作成しながら手際よく滑り台を完成させました。付隊長の最終確認で「合格！」の太鼓判をもらった後、各チームに分かれてそれぞれの任務に就きました。

雪像制作チームは、何度もバケツで水を運び、さらに雪を固めながら「たまちゃん」の雪像を完成させました。

餅つきチームは臼で計11回の餅をつき、温かい餅を来場者に振る舞いました。

雪の滑り台は大人気で、子供たちの行列が途切れることなく、会場には元気いっぱいの歓声が響き渡りました。

篠路茨戸地区には、丘珠駐屯地協力会の会員も多く、

付隊長による滑り台コース確認

呉（広島県）

「しもきた」LCAC部隊実習を支援

雪の滑り台や餅つきで地域とふれあい

海上自衛隊第1輸送隊所属の輸送艦「しもきた」（艦長・寺岡寛幸2等海佐）は令和6年11月27日から12月8日の間、広島湾で、また12月23日から26日の間、日向灘で、LCAC（エアクッション型揚陸艇）部隊の4回目となる実習支援を実施しました。

LCACは、海面を浮上して高速移動するホバークラフトであり、洋上から陸上（ビーチなど）へ直接上陸できるという特殊な能力を持ちます。

「令和6年能登半島地震」では、道路の寸断により陸上輸送が困難な状況下で、LCACが洋上から車両や支援物資を揚陸し、その能力が改めて注目されました。

LCACは5人の乗員で運航され、クラフトマスター（艇長兼操縦士）、エンジニア（エンジン操作）、ナビゲーター（レーダー・無線操作）、ロードマスター（搭載計画立案）、デッキエンジニア（不具合修理）がそれぞれの役割を担っています。

乗員の育成は江田島の水陸両用戦・機雷戦戦術支援隊で行われ、座学やシミュレーター訓練を経た後、実機を用いた実習に入ります。

輸送艦はこれらの訓練支援に加え、硫黄島への業務輸送、陸上自衛隊水陸機動団との協同訓練、地方自治体との防災訓練など幅広く活動しており、今後も国民との架け橋としての役割を果たしていくとしています。

輸送艦「しもきた」とLCAC（手前）

姫路（兵庫県）

駐屯地で緊急時の支援体制を強化

新規参入のコンビニと覚書を締結

陸上自衛隊姫路駐屯地業務隊（隊長・西健一2等陸佐）は2月27日、緊急時における隊員やその家族への商品供給体制を強化するため、令和7年度から駐屯地内で営業を開始する株式会社ファミリーマート（代表取締役・細見研介氏）と、フランチャイジーである株式会社高倉商店（代表取締役・高倉由吏氏）との間で、相互支援に関する覚書を締結しました。

この覚書には、緊急時の隊員の行動に合わせた営業時間の延長、緊急登庁時に開設される「子供一時預かり所」での食料やおむつなどの確保、繁忙時の店員増員、さらには官側による商品の輸送支援などが盛り込まれています。

特に、隊員が緊急登庁する際には、子供の食事や必需品の準備が大きな負担となりますが、今回の覚書により駐屯地内のコンビニでこれらを購入できるようになることで、隊員の負担軽減と任務遂行の支援につながります。

締結式では、令和7年度からコンビニを運営する高倉商店の高倉代表取締役が「まずは経営を安定させ、駐屯地の隊員の皆さまに喜ばれる店舗を目指したい」と語りました。今後も官民が連携し、隊員のサポート体制をさらに充実させていく方針です。

FamilyMart
駐屯地とコンビニの覚書を手に

札幌（北海道）

北部防衛衛生学会を開催

教訓を未来へ、迅速・的確な対応力を

自衛隊札幌病院（病院長・川口雅久陸将）は1月22日、北海道青少年会館コンパスにおいて、令和6年度衛生科幹部等集合訓練（第68回北部防衛衛生学会）を開催しました。

本学会には、多くの来賓のほか、北方を中心に全国の衛生科隊員が参加しました。

開会にあたり、川口陸将は「教訓を温（たず）ね将来に備える」を今年度のテーマに掲げ、「厳しさを増す安全保障環境の下、あらゆる状況に迅速・的確に対処するため、本学会を通じて北方が積み重ねてきた教訓を共有し、組織・個人としての『引き出し・道具』を増やす契機としてほしい」とあいさつしました。

学会では、末吉陸将による総監講話、川口陸将の基調講演に続き、特別講演としてアテネ五輪柔道銅メダリストの井上2等陸佐（体育学校）が登壇し、「夢・感謝・信頼」をテーマに、挑戦し続けることの大切さを語りました。

また、教育講演では、沖縄県立八重山病院救急科部長の竹島茂人氏が「国際貢献活動・off-JT・救急医療を通じて学んだ和他の心」と題し、陸自医官としての経験をもとに医療従事者のあり方について講演しました。

一般演題では、衛生支援能力の向上を目的とした各部隊の取り組みや成果について、6個部隊が発表しました。

さらに、指定演題として札幌病院の医官3人が、過去の災害派遣や国際平和協力活動における実績について報告しました。

発表後の質疑応答では、活発な意見交換が行われ、貴重な知見が共有されました。訓練は所期の目的を達成し、成功裡に終了しました。

令和6年度 衛生科幹部等集合訓練
第68回 北部防衛衛生学会
担任官による開会あいさつ

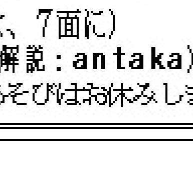
竹島部長による教育講演

数学　頭の体操㉖

問題

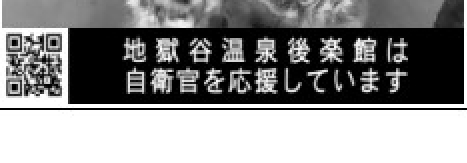
現在、和夫さんは5歳、父親は29歳です。

父親の年齢が和夫さんの年齢の3倍になるのは何年後でしょうか。

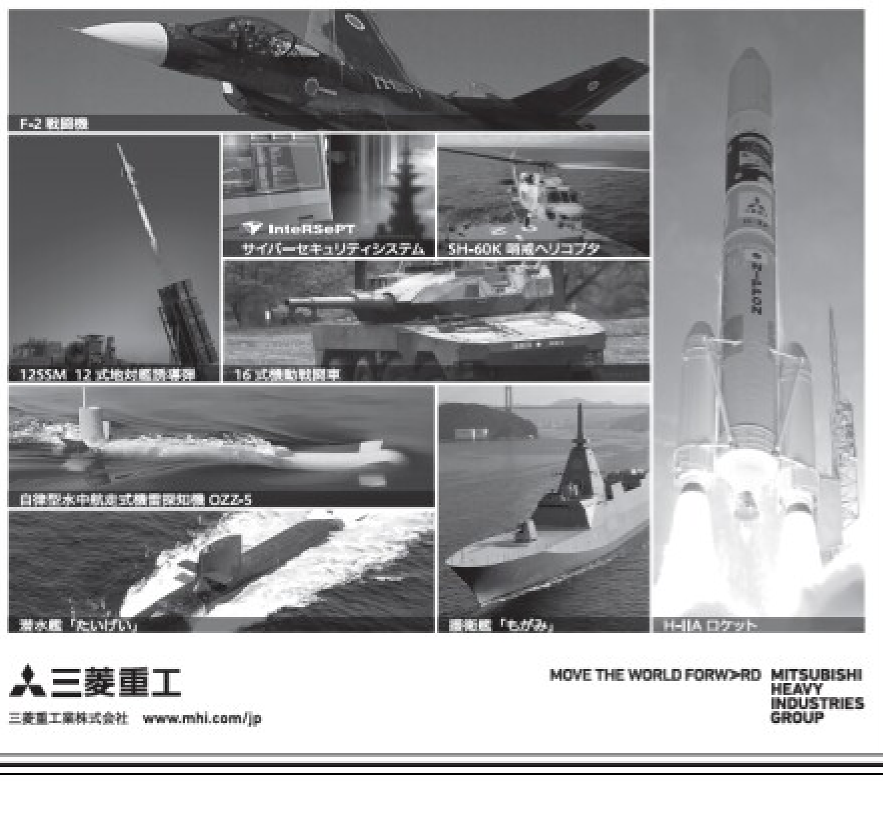


（解答は、7面に）
（出題・解説：antaka）
＊漢字あそびはお休みします。

地獄谷温泉後楽館は
自衛官を応援しています



令和7年
防衛省・陸上・海上・航空自衛隊
新入隊員おめでとうございます
がんばろう日本
協力：（公社）自衛隊家族会
制作：（有）防衛企画
協賛：防衛省関連優良企業（順不同）我ら企業も応援します。



三菱重工
三菱重工業株式会社　www.mhi.com/jp
MOVE THE WORLD FORWARD　MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

IHI
株式会社 IHI エアロスペース
本社／〒370-2398 群馬県富岡市藤木 900 番地
TEL 0274-62-4123　FAX 0274-62-7711
東京事業所／〒135-0061 東京都江東区豊洲3丁目1番1号（豊洲IHIビル）
TEL 03-6204-8000　FAX 03-6204-8810

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better
三菱電機株式会社
〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
www.MitsubishiElectric.co.jp